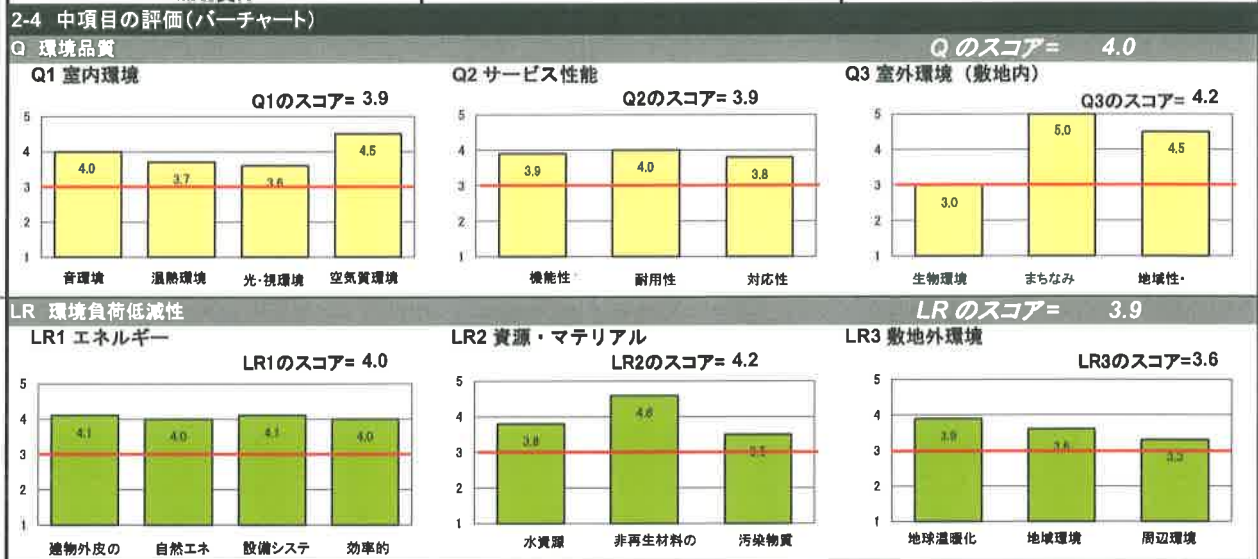
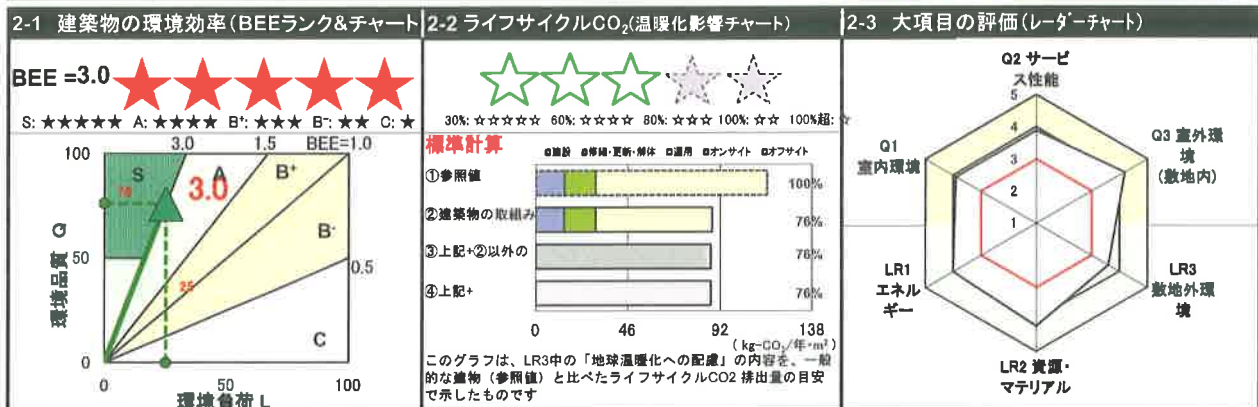


CASBEE[®]-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	鳥取市新本庁舎	階数	地上8F
建設地	鳥取県鳥取市幸町71番地	構造	SRC造
用途地域	商業地域・近隣商業地域、法22条第1号	平均居住人員	1,350 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場、等	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2019年9月 竣工	評価の実施日	2019年9月5日
敷地面積	13,669 m ²	作成者	勝久米設計 田中敬
建築面積	6,421 m ²	確認日	2019年9月5日
延床面積	22,224 m ²	確認者	小牧実豊



3 設計上の配慮事項		
総合	建物外皮性能、内部環境の確保と共に、オモテのにわ〜オウクのにわを通した緑豊かで利用しやすい潤い環境・景観を確保	その他
Q1 室内環境	高い遮音性能、外皮性能を確保し、吸音及び、ライトシェルフや、トップライトを備えたエコポイド等光環境、空気室環境にも配慮	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	高い外皮性能とモニタリングにより高効率化	・自生種・郷土種に配慮した植栽計画によりトオリにわを計画 ・内装材には地場産材の杉を利用し鳥取市の顔として計画
Q2 サービス性能	バリアフリー誘導基準に適合したゆとりある空間とし、和紙や木材を各所に利用、窓口廻り等に間接照明を取り入れた特徴ある内装計画	LR3 敷地外環境
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材の利用に配慮しながら、木材は主に県産材を利用	高層部の形状を卓越風に配慮して計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される